

平成 31 年 4 月 18 日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。

先ほどご案内しましたとおり本日もライブで配信をしております。

本日の話題は 2 件になります。それでは市長よろしく願いいたします。

【市長】

はい、よろしく願いいたします。

今回、臨時はありましたけれども、定例記者会見ということでは当選をして初めての会見であります。個別のインタビュー等々は、させていただいておりましたけれども、皆さんと一緒に仕事ができることを大変うれしく、また心強く思っております。どうぞ静岡市政のこと、またよろしく願いいたします。

それでは、今日の話題は 2 つであります。まず 1 つは市民の皆さんとの約束を実行しますマニフェスト 2019、100 日プログラムスタートという話題であります。

ご存知のとおり、私、選挙戦を通じてマニフェスト 2019 を発表をさせていただきました。三部構成できておりますが、この 100 日プログラムというもの、これを大事にしております。

そもそもマニフェストは、私がこれまで推進してきた三次総をベースに作成をし、4 年後、市民の皆さんに検証していただけるように活字に残し、冊子として取りまとめたものであります。

このマニフェストに記載した 100 日プログラムは私の任期 3 期目のスタートダッシュを意味、意識づけるものとして、この 4 月から新設した総務局市長公室を中心に、着任が 4 月 13 日ですから、そこからカウントして 100 日以内、7 月 21 日までにこれだけは公約を実行したいということであるという枠組みで、就任早々、開始をする取り組みであります。

100 日プログラムの背景としてキーワードは 2 つあります。1 つはスピード感、もう一つはわかりやすさであります。

スピード感というのは対内的に、対行政内に対してやるぞというような、一つの加速力を増していくために、この就任して 100 日以内にやるから頼む、というような意味合いがあります。

現職の候補でありますし、告示の前に人事もこういう体制でやっていくという準備はしておりましたので、とにかく着任したらすぐに動き出せるという意味で、スピード感、これから 4 年間もスピード感が求められることが多くあるかと思えます。その最初のスタートダッシュと先ほど申し上げましたけれども、そのテコになるような施策としてスピード感と

いうものを、対内的にはキーワードとして、ぜひ、ご理解をいただきたいと思います。

もう一つはわかりやすさ、対外的なわかりやすさで、マニフェストの構成、最優先の五大公約、五大構想に始まって、そして、この100日プログラムを挟んで、そして第三部には20の約束、4年間の任期中にやり遂げる20の約束という構成になっているんですが、五大構想というとな、例えば歴史文化の拠点づくりとかね、ものすごく大きな施策が並んでいるわけけれども、この100日プログラムは市民目線でのわかりやすさということを大切にしております。

選挙ということもありますので、私のいわゆる支援団体、世界に輝く静岡の会であるとか静岡地球クラブだとか、いろいろな青年会議所の仲間とか、高校時代の同級生とか、色々な様々な後援会を作ってくれている会議、人の集まる市民会議とか、色んな会議があるんですけどそこから、どんなアイデアがあると、どんなことをマニフェストに、100日プログラムのマニフェストの中に、盛り込んでみたら市民の皆さんはわくわくしてくれるかなと、そこに一票を期待してくれるかなというふうにボールを投げてみたんですね。そうしましたら、いろいろなアイデア、奇想天外なやつも、いろいろなアイデアが何十も出てきました。

その中ですごくおもしろくて斬新で、しかも100日以内で実行可能な5つを選び込んで、これを掲げたということでもあります。ですので、わくわく給食プロジェクトなんかもそうですし、まちかどにピアノを置いて「まち劇場」というもののシンボルにしていくなんていうのが、そういう市民の声から生まれた、公約だというふうに受け取っていただきたい。なので二つ目のキーワードは、わかりやすさということでもあります。

配布資料の中にその具体的な5つの内容は記載をいたしましたのでお目通しをいただきたいと思います。なお、各事業の詳細は今後、定例の記者会見で随時発表していきます。

これらの100日プログラムは、単に期限内に実施するのみではなく、次の政策・施策の展開に繋がる取り組みとして、創意工夫を重ね、また局間連携、さらには官民連携等も視野に入れた取り組みとして進めていくつもりであります。以上です。

次は、これはぜひ、胸を張って子ども未来局の職員が頑張ってくれました、その大きな成果の一つですので発表させていただきますが、2年連続、待機児童ゼロ達成ということでもあります。私が市長に就任して二期8年の間に、保育所などの定員数の拡大を進め、約4,150人分の定員を拡大をしました。その結果、待機児童が最も多かった平成26年度の156人から、年々減少し続け、二期目のマニフェストにおいては特別重点政策として掲げた、待機児童ゼロを30年4月に静岡市としてはじめて実現をいたしました。

これ4年前のマニフェスト、4年前の公約ですね、これも達成をしたということでもあります。そして昨年に引き続き、今年も2年連続となる待機児童ゼロを達成いたしました。

これは発表するとね、当たり前のように見えますけども、この大都市、政令指定都市、首都圏、そういうところでは本当にハードルの高い目標値なんです。

全国に目を向ければ、国を上げて待機児童の解消に取り組んでいるものの、依然として首都

圏等を中心として、待機児童の問題は解決していません。

平成 30 年 4 月の時点で、政令指定都市 20 市全体の待機児童数が 1,834 名にのぼり、待機児童を解消できたのは、20 市中 7 市にとどまっているという状況です。

そのような状況の中、静岡市では認定こども園の普及促進、施設整備による定員拡大等を着実に推進するとともに、三区各区の子育て支援課において、面談や電話連絡等により保護者の意向や状況を丁寧に把握し、利用可能な園の情報の提供をしていきました。

その結果の 2 年連続して待機児童をゼロに解消できたこと、本市が子育てしやすいまちであるということを市内外に積極的に PR する機会になりました。

今後は静岡市の充実した子育て支援策を、子育て世帯の皆さんに共感をしていただき、子育てしたいまちとして選ばれるような、そんな情報発信に広報課ともども、取り組んでいくつもりであります。

一方、待機児童のゼロは達成しましたが、利用申込者数は年々増加をしており、今年度もさらに 105 人分の定員の増を計画しています。また今年の 10 月からは国による幼児教育の無償化もスタートするため、そのニーズを的確に把握し、必要な施設整備や保育士資格を持ちながらも保育園等で働いていない、いわゆる潜在保育士の掘り起こしをはじめとした、保育士確保などの対策を進め、引き続き待機児童ゼロの継続を目指してまいります。

さらに保育所等の待機児童ゼロに続き今回の 3 期目のマニフェストを公約に掲げました、小学校入学して以降の放課後児童クラブの待機児童の解消、待機児童ゼロの達成に向けても今後、4 年間全力で取り組んでまいります。

今後も子ども未来局のみならずこれも局間連携により、静岡市一丸となって子どもたちがよく育つための環境の整備。ひいては、女性が活躍できるまちづくりを進めてまいります。よろしく願いをいたします。以上です

【司会】

それでは、ただいまの発表項目について、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いします。

はい、朝日新聞さんどうぞ。

【朝日新聞】

先ほどのピアノのやつなんですが、これはどこで、いつくらいから何か所くらいやるんでしょうか。

【市長】

はい、さっそくの質問ありがとうございます。今、鋭意検討中ではありますが、詳しくは市長公室長、市長公室の所管となっておりますので、何か今の時点で実務的に答えることができることがありましたらお願いします。

【市長公室長】

はい、現在、プログラム実施すべくですね、実務レベルでの協議に入っております。

7月を目指してですね、ピアノ設置するということでは、現在、観光交流文化局との調整を図っておりますので、詳細決定次第ですね、順次、定例記者会見においてですね、市長より記者発表していただくということをお願いしたいと思います。以上です。

【朝日新聞】

要するに所管は観光文化交流局でしょうか。

【市長公室長】

そうでございます。

【市長】

少し補足しますとね、現職の候補者の公約ってどうしてもベースとしてね、現行の総合計画、3次総、5大構想があるからそれだけだとつまないんですね、有権者から見ると。新味がないというかね。それはもう路線ですのでね、まあそれを着実に実行するというのが、責任ある現職の候補者の姿勢ではあるんだけど、しかし市民目線でね、なんかこれがあったらいいねってわくわくするような、例えばスーパーの商品でいろんな公約が並んでるとすると、買いたくなるねと。これにはお金払いたくなるね、投資したくなるね、つまり一票投じたくなるね、そういう政策を広く民間の先ほど申しあげましたような様々なグループに投げかけて侃々諤々、ワイワイワイワイ、いろいろなアイデアを出してもらって、残ったのがこのピアノの設置ということなんですね

面白いと思うんですね、取り組みも全国的にはあるようですね。そこで誰もが自由にね、ちょっと腕に自信がある人が、そこでピアノ弾いてみると。それになんとなく人だかりが起こる。それはすごくまち全体が劇場のような、そんな文化クリエイティブなまちになるというような、そんな一つのシンボルになるのかなというふうに、私は思ってこれを取り入れました。

【司会】

他にいかがでしょうか。

はい、朝日新聞さん。

【朝日新聞】

今に関連して、イギリスのテレビ番組で空港にピアノをおいてやるっていうのがあるのだけどそれが参考になっているのでしょうか。

【市長】

そうだと思います。

【司会】

よろしいですか。

はい、読売新聞さんどうぞ。

【読売新聞】

待機児童の関係なんですけども4月1日時点のゼロを達成した昨年度も10月1日時点では95人ほど、待機児童が出ているという話が昨日レクの方で出たんですけれども、今年度についても4月1日時点はゼロなんですけども、10月1日時点ではやはり待機児童が出てしまうのは避けられなさそうだという話があったんですけども、市長はこの年度途中で待機児童が出てしまうということについてはどういうふうに対策を進めて行こうとお考えでしょうか。

【市長】

それも先ほど申し上げをしましており、国の政策も始まりますので、想定をしております。丁寧に対応していきたいと思います。

【司会】

よろしいですか。ありがとうございます。

いかがでしょうか。それでは、はい、次は幹事社質問ですね。幹事社さんお願いしたいと思います。

【毎日新聞】

よろしくお願いします。今回は4点、幹事社から質問をさせていただきます。

最初にまず2つ伺いたいんですが、今月10日の知事会見で、川勝知事は清水区で進める予定のサッカースタジアムの建設や海洋文化施設の建設、清水庁舎と桜ヶ丘病院の移転などの優先順位と工程表を示してほしいと要望がありました。

これに対する受け止めと具体的にどういった工程を予定しているのかというのが1点目。

2点目が、関連して県は県市連携について、知事特命の担当理事を置く決めて、優先順位や工程表が示された上で、事務方同士の調整を進めたいとしています。ついては、静岡市も担当職員を決めてほしいと話していますが、こうした申し出については承知しているのかと、またどういった対応を取る予定なのかを教えてください。

【市長】

はい、2つ質問をいただきました。

まず、最初の質問の受け止めではありますが、もちろん県知事がいろいろな意向を知事の記者会見で発言をされたということは承知をしております。それが、私が県庁に4月8日に出向いて、知事に直接お会いをし、お話をしたことに対する回答としての意向であるならば、知事もまず、私に直接おっしゃっていただきたいと思います。

2つ目の質問ですが、これまでの二期8年、政令市の長として必要な施策や事業について、多くの市民の皆さんから意見を聞きながら総合計画に位置付け、市議会の判断をいただきながら着実に進めてきました。今回のマニフェストについてもこれまでと同様に今後総合計画に位置付け、進めてまいります。

一方、県職員の皆さんとはこれまでも県市地域政策会議や駿河湾フェリーの社団法人化などいろいろな枠組みの中で連携をしてきました。今後も同様に連携を深めていきたいと思えます。

【毎日新聞】

工程表については用意する準備があるってということなんでしょうか。

【市長】

我々とはとにかく着々と、先ほどの私の回答をちゃんと理解して欲しいんですけども、今回のマニフェストについてもこれまでと同様に総合計画に位置付け進めてまいります。

【毎日新聞】

わかりました。3つ目の幹事質問に移ります。

サッカースタジアムの建設についてなんですが、これまで市はホームタウンチームのエスパルスの活動支援のためにI A Iスタジアムの改修なども含めJリーグのライセンスに適合するスタジアムの整備方針を検討するとしてきました。

直近の市長選で、田辺市長は公約にサッカーのまち清水にふさわしい新スタジアムの建設を目指すというふうに書かれています。

新スタジアムの検討を決めた経緯を教えてください。

【市長】

はい、わかりました。

着任以前のことなので承知はしていると思えますけども、私はJリーグのライセンス制度を導入する前の平成24年度から、現行のクラブライセンス制度の基準の適合に向けたスタジアムの整備の検討に取り組んできています。

その中で、スタジアムは交通アクセスの良い場所が望ましいというJリーグの村井チェア

マンの助言、あるいは清水の経済人等で構成する魅力ある清水をつくる会の J R 清水駅東口への整備に関する提言もありました。J R 清水駅周辺に整備した場合には大規模集客施設としての賑わいや経済の活性化などが期待できます。

しかし、土地利用の制限や地権者の意向などの課題もあります。そこで、これまでは周辺の動向を慎重に見極めてきたところでもあります。

一方、今回の選挙戦を通じて多くの市民の皆さんから、エスパルスをサポートの皆さん、もちろんのことですけれども、清水駅周辺のサッカースタジアムの整備ということを熱望する声がありました。

こうした経緯から改めてスタジアム整備について、中長期的な視点での取り組みが必要であると考えておりますので、もとよりマニフェストに登載したものであり、ご関係の皆様との調整を経て、三期目の4年間でこの構想作りに着手してまいります。以上です。

【毎日新聞】

ありがとうございます。幹事社から最後の質問です。

救護病院の指定についてお伺いします。県は津波浸水想定区域に移転する病院は救護病院に指定しないと示す指針を示しました。

桜ヶ丘病院は津波浸水区域外から区域内へと移転する計画だと思います。県には強制力がありませんが、これに対する受け止めに教えてください。

【市長】

はい、これも受け止めということですので、お答えをいたしますと、この新しい桜ヶ丘病院の機能や構造は、これから明らかになっていくものと思いますが、引き続き、より多様な災害の場面で救護病院としての役割を担っていただけるように、例えば対津波性能の向上など、JCHOとの協議を進めてまいりますので、県当局の皆さんにもご理解をいただきたいと思っております。

【毎日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。それでは各社さんから、ご質問を受けたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。どうぞ。

【朝日新聞】

サッカースタジアムですけれども、だいたい見通しとして何年後ぐらい、どれぐらいのお金を使って作ろう、東口にですね、という感じなんですか。

【市長】

先ほどの答えをちゃんと受け止めていただけたならば、そこまでの話にはまだ行ってないということは、ぜひご理解いただきたいと思います。

【朝日新聞】

要は市役所清水庁舎、それから海洋文化施設、こちらが先に建つということ？

【市長】

そうですね。まず土地の確保ということが先決になることは、ご理解いただけたと思います。五大構想で掲げた海洋文化拠点の推進の目玉になる海洋文化施設の土地の確保については、今年中に、土地の提供がいただけると。そこに私ども購入をさせていただけるという目途が立ったので、これを五大公約に掲げたという経緯ですので、この海洋文化施設が先になろうかと思っています。

【司会】

よろしいですか。はい、NHKさん、どうぞ。

【NHK（日本放送協会）】

最初の先ほども質問の中であった知事との話なんですけども、知事の方からカウンターパートを決めてぜひやってほしいという話が、この前の会見であって、今、市長もおっしゃられたとおり、まずは直接、市長の方から知事の方に会いに行ったんだから、まずは知事の方から直接、私の方に来るべきだというところの話は、よく理解できたんですけど、その理解できた上で、お考えとしては、やはりそういうふうな、どっちにしてもやっぱりこれから県と静岡市というのは、関係を密にしていかないと少子高齢化の時代とかも乗り越えられないと思うので、その上で市長として、お考えとしてはどういうお気持ちがあるのかということ、ちょっとお話ししてもらえないでしょうか。

【市長】

縣市連携をしていきたいという、その一つの気持ちであります。

【NHK】

その上で、実際に誰か、その役職を設けるとか、そういうお考えが実際にあるのかどうか、そのあたりお願いします。

【市長】

いろんな方と相談をした上の話ですね。

まだね、先ほどの答えのとおりですのでね。私、4月7日に開票が終わって、当選が決まって、その後、皆さん方からいろんなインタビューを受けました。その時にも、もう県市連携したいんだと、もう試合は終わったんだから、未来志向でノーサイドにしようということは、テレビカメラの前でも申し上げました。

記者会見で言うのは、私の気持ちですから簡単なんですよね。ただ、やっぱりノーサイドにしようと呼びかける相手は県知事ですので、なので当選証書もらった足で、とにかくそのことを face to face でね、直接、県知事に伝えるのが大事だということで行ったわけでありませぬ。

ぜひ、その思いをご理解いただきたいなというふうに思います。

【NHK】

すいません、同じ質問で重ねてなんですけど、せっかくこうやって最初にお話しできる場が持たれたということなんですけども、実際にこれから任期としては、市長は4年間ですけど、知事は2年ぐらいしかないわけで、限られたその時間の中でどれだけ詰めていけるかというところが非常に大事かなと思うんですけど、これから市長としては投げかけたということなんですけど、回答を待つばかりじゃなくて、次に何かするべきこととか、何か考えておられることはありますか。

【市長】

先ほど、お礼を兼ねて県議会自民改革会議の県議の先生の皆さんのところに行ってまいりました。

そこでもね、私、県市連携したいんだと。なので今回、推薦もいただいて当選させてもらったものだから、これからもね、ぜひ皆さんのお力をお借りしたいということをお願いをしました。

【NHK】

すいません、要するに、まず県議会と連携を図りながらという形でよろしいのでしょうか。

【市長】

そうですね。

【司会】

はい、どうぞ。

【読売新聞】

今の質問の関連でお伺いしますが、県知事としてはですね、一人の職員の方を一番筆頭の担当者として設けて、県市の連携を進めていくというお考えを示されたわけですが、田辺市長の考えとしては、担当部局間での連携で止めるべきなのか、それともその県の担当者のような特命と言いますか、一番の筆頭となるような担当者を置くべきなのか、どちらの方向で進めていきたいというお考えはありますか。

【市長】

まだ、その考えは定まっているわけではありません。ただやはり連携ということ、私は県だけではなく国との連携、あるいは民間との連携、あるいは市役所の中の、縦割り行政を打破するための局間連携、チームして『和をもって貴しとなす』で仕事をしようよ、令和の時代です、そんなふうなことを施政の運営方針に掲げておりますので、その点で人事交流というのはすごく大事だろうというふうに思っています。

連携中枢都市圏やっておりますので、5市2町とも人事交流を始めております。

【読売新聞】

ありがとうございます。その人事交流の関係でもう一点お伺いしますが、知事の方としては、もしその職員の派遣とかであれば、そういうような要望があれば対応したいというお話が、知事の方からあったんですけれども、市長としては県職員を市の方にまた迎え入れるというのか、お考え、要望とかはあるんでしょうか。

【市長】

今、記者さん「もし」と仰いましたので、「もし」の質問に、今、答えるべきではないというふうに思っています。先ほど申し上げましたとおり、まだ考え方が定まっていないということでもあります。

【司会】

よろしいですか、はい、静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

今の質問に関連してなんですけれども、知事の定例会見の中、あるいは知事のこれまでの発言の中でですね、副市長にするという約束で預けた幹部が、2年間、窓際族に置かれたと、ちょっと立腹の様子だったんですけど、その辺はいったいどういう経緯があったのか、どのように受け止めてらっしゃるのか、ちょっとそこをお聞かせいただきたいんですけども。

【市長】

全くそれは誤解であります。詳しくは実務的に人事の担当者等々ありますので、ぜひ経緯を市の立場から説明をさせていただきますので、取材をしていただければと思います。

【静岡朝日テレビ】

それとちょっと違う質問なんですけど、その知事の発言の中でですね、清水区とはまた別にこちらの歴史博物館の方なんですけれども、市民が望んでいるのは博物館ではなく、駿府城の再建であるというような発言もあってですね、この歴史博物館についてはやっぱり意見が合っていないのかなという感じは客観的にするんですけれども、今現在はですね、これについてはどんなふうにお考えになってますでしょうか。

【市長】

冒頭、総論で申し上げましたとおり、私どもが政令市のプロセスの、意思決定プロセスの中できちっと議会のみなさまと共にこのことを議論し、そして秀吉時代の遺構が見つかったというのは、これは素晴らしいことですよ。それも付加価値として、どういうふうに博物館と駿府城公園全体をフィールドミュージアムとしてアピールしていくのかというふうに考えておりますので、この駿府城公園と博物館は一体のものであります。

【静岡朝日テレビ】

じゃあ博物館はこの予定どおり進めていくという意向だということによろしいでしょうか。

(市長うなづく。)

【司会】

読売新聞さんどうぞ。

【読売新聞】

桜ヶ丘病院の移転についてお伺いします。県の方からも、津波浸水地域への移転を不安視する声が上がっておりますけれども、病院側自体の対策というのは先ほどおっしゃっていただきました。一方で病院へのアクセスについてですね、もし津波被害が生じた場合に、そこに、病院にたどりつけなくなるのではないかなというような指摘もされていますが、そこについての対策、市としてはどのように捉えていますでしょうか。

【市長】

この点につきましては、私も遊説中ね、なぜあそこに静岡市が土地を提供をして、そして、庁舎を駅前にしたのかということをお話したつもりでありますけれども、それが足りなかつ

たなというふうに思っています。それは選挙戦の前からね、これ、ぜひね、覚えている方もいらっしゃるかと思えますけども、パブコメ、多くの皆さんからパブコメをいただきたいという一環で、私も参加をして清水の駅前で通勤時間帯に「パブコメあなたの意見をお寄せください」というチラシを配ったんですよ。これ、今日、持っていますかね、用意できるかね。これ、ぜひね、記者の皆さんにもう一度お伝えをして、記者の皆さんからも、私たちもね、もっともっと伝えなきゃいけないというふうに思っています。ご協力をお願いしたいなと思うんですけどね、やっぱりね、伝わっていなかったなということを、私、実感しているんです。

ここに大きな紙面を割いてね、災害で強い清水庁舎にするよということを伝えているんですね。今、お配りをしておりますので、ぜひ開いていただいた上側のところ、3つ特徴があるわけですが、3つの特徴の中でも災害に強いという特徴を、二倍の紙面を割いて書いてあるわけです。

要は清水区というのは港町として発展をしてきた歴史がありますので沿岸部、いわゆる海抜が低いところに中心市街地が形成されてきました。清水駅のみならず、駅前銀座、清水銀座の商店街も同じであります。やはり市民の声はね、駅前銀座が寂しくなっちゃったよ、人通りが少なくなったよ、元気にして欲しいという声も多くいただきました。

一方、高齢化社会ですので、車に頼らなくても便利に生活できる町、コンパクトシティにしていかなければなりません。そして、3つ目の観点としては、災害に強い地域にしていかなきゃいけません。その駅前の経済が活性化から高齢化社会に対応したコンパクトなまち、そして、災害に強い防災機能の強化。この3つのね、大きく総合的な観点から出した結論がこれなんです。

そして、災害に強いという切り口からするとここに書いてあるとおりです。まず、建物自体を災害に強い建築にするということはもちろんなんですけど、もし災害の時にもね、ここが緊急避難所になると。かなりの高さを持ったビルになりますのでね、約1万2,800人が緊急避難できる、そういうビルでもあるんです。むしろ、そこが橋頭堡としてね、その時には大変な機能を発揮するということを期待をしています。

2番目、3番目、もう2つとね、通勤の流れも出来てきます。これ、公共投資を呼び水にして、民間企業の投資を呼び込んで、「経済の活性化」にしたいというのは、私の今回のね、今後4年間でやっていきたいことの訴えの一番のポイントでしたので、その庁舎ができることによってさらに東口の開発が進んでいくし、そういう計画も合っていくわけですね。そうすると、そこに通勤の流れも出来てきます。人の流れも出来てきます。それが銀座に還流をしていく、回遊性を持っていくということですね。銀座を見捨てちゃいけないと思うんですね。

ですから、やっぱりその清水の中心市街地をどう活性化していくかという観点も大事だということです。だから、積極的に防災に強いという庁舎にするという意向の中でね、あそこだということを決めたわけですね。

で、JCHO、病院の位置については、もとよりがJCHOが民営化して、JCHO自身が、いくつか提供した土地の中で、あそこにさせてほしいというふうにおっしゃったわけですね。それ以前は全国に数十箇所病院がある中で、整理統合を考えておりましたので、清水から撤退するかもしれないというリスクもあった中での交渉だったわけですね。

やっぱり民営化された病院として、やっぱり経営のことを考えなきゃいけないのがJCHOの立場ですから、そうすると土地を購入していた大内新田では難しいという判断をJCHOがされた。

なので、もう少しバスの路線、あるいは鉄道の交通アクセスの良いところということで、あそこならば移転新設にしますということだったので、提供したことがこういうコンバージョンになったわけです。そのところも、ぜひ、ご理解いただきたい。

で、JCHO自身も和歌山市とか大分市で、津波想定域で災害に強い病院建設をして、そして津波は怖いからって患者さんが来てないわけではないですよ。たいへん、患者さんに信頼されるようになってますよという立証がね、力強い言葉がね、ここ津波想定域ですけど、どうですかと言ったら大丈夫です、という会話があったからこういうことになったわけですね。

そういう経緯で総合的にいろんな観点から、防災のみならずね、判断してこういうことになったということ。ただ、このことが市井の皆さまに、市民の皆さまにね、伝わってなかったということは、冒頭申し上げたとおりなので、これから4年間、このところを丁寧に、また広報課や所管の課、みんな一丸となってどうやってこう情報発信をしてね、そして、ご理解いただくかという作業を進めてまいりますので、ぜひ記者にもね、そのあたりの広報というのを、きちっとお伝えていただければ、たいへん私は心強いなというふうに思います。

【読売新聞】

読売さん、ありますか、まだ。

【読売新聞】

すみません、ちょっと質問の方を整理させていただくと、あの場所を選んだのはJCHOだというのは今の説明でよくわかりましたし、あそこに移転すれば駅前の活性化やコンパクトシティへの対応というのもしやすいというのは非常にわかるんですけども、一方で、その津波が起きたときに病院の庁舎、病院の建物自体が、津波対策取られているのはわかるんですが、そこへのアクセス、救急搬送とアクセスですね、そのアクセスの強靱化を図るのは、行政の責任だと思うので、そこの取り組みをされていけば、市民の方の不安を払拭するためにもですね、取られている対策ですとか、今後、取っていきたいという方針があれば、津波時の病院までのアクセスの部分、その対策をお聞きしたかったんですが。

【市長】

記者は、2年前に私たちが行ったタウンミーティング出席されましたか。あの時に、そのことをずいぶん説明をしたんですけど、当時の危機管理統括監とか、私もフォローしましたけど、道路啓開をしっかりとやるんだと、自衛隊等々の出動も要請をしながらやるんだ、アクセスができるようにするんだと、がれきの除去をするんだということを、説明をしました。それは改めてということならば、危機管理統括監、あの時は荻野さんだったんだね。副市長、今、美濃部副市長が、担当を引き続きやっていますからね。ぜひ、そのあたりを取材していただきたいと思います。

【司会】

はい、どうぞ。

【朝日新聞】

要はですね、市民の方が不安に思っているのは、津波が来て水浸しの中ですね、地面が浸水して病院にね、命に係わる患者も運べない、それから時間によっては医師もそんなにいない。夜間なんかはですね、看護師もどうやって病院まで行くんだと。そういうふうに心配しているわけですよ。それについて回答を求めてらっしゃると思うんですよ。いかがですか。

【市長】

まったく今の質問と同じですよ。だから回答も同じです。

【朝日新聞】

100%ですね、自衛隊が出てですね、道路云々とおっしゃったけど、できるとは保証できませんよ。

【市長】

それは誠実にお答えさせていただきますので、ここのところもちゃんと伝えなければいけないなあと思っています。美濃部副市長、何かコメントございますか。一言で結構ですよ。

【美濃部副市長】

あんまり長く言っただけいけないんですけど、やっぱり、県に防潮堤をしっかりと整備してもらうことが大切であって、防潮堤があっても潰れることを前提に逃げてはもらうんですけども、大津波警報の時だけ逃げるのか、普通の津波注意報でも逃げるのかというのは堤防の進捗に従って、その時々で変わってきますので、まだ津波が来る前に病院へ行ける確率をどう高めていくか。

それから津波が来た後にですね、道路の啓開の手間も入ってくる水が少ないほど早く道路

計画ができますので、それも堤防の進捗が進むほど水が減ってくるということになります。それから、もちろん巴川を渡って行くようなルートもありますので、橋梁の耐震化は市の方で進めていくと。そういうことをしっかりとやっていきたいと考えております。

それで、本当に清水病院も厚生病院もありますけれども、近隣で必要な患者さんのためには救護所を設けて山側で応急手当はしていくと。そういうことを、その時の病院の配置に従って考えていきたいと考えております。

【司会】

他にいかがでしょうか。

お時間の方がだいぶ、短くなってまいりました。

【SBSテレビ】

先日の知事会見で、トップ会談のような可能性も含めていましたが、田辺市長は、また川勝知事のところに会いに行くような可能性はあるのでしょうか。

【市長】

キャッチボールはしたいと思っています。

【静岡新聞】

清水庁舎の話が出たので関連で。静岡新聞社の方で、市長選の期日前出口調査を行いまして、2,300ほどサンプルをとったところ、「清水庁舎の移転に反対」という市民が43%、「賛成」という市民は20数%しかいなかったのですが、清水区においては50%以上の人が「反対」ということを表明というか、意思表示されました。

市民の清水庁舎の移転に対する理解というか、同意が進んでいない現状が浮き彫りになっているんですけども、市長の受け止めと、市長は「まだ伝わっていなかった」という話を、「市民に伝わっていなかった」という話をしていましたが、今後、では、どのように市民にそれを伝えていくのかということ、今、考えがありましたらお答えください。

【市長】

はい。わかりました。あれは、出口調査でしたっけ？本当に記者おっしゃるとおり、あれも伝わっていなかったなあ、というふうな思いで記事を、拝見をいたしました。

改めて、同じことなんですけどもね。きちっと丁寧に、説明をする必要性を感じています。それに尽きると思います。

【静岡新聞】

タウンミーティングは3年前くらいに清水でやって、去年は葵・駿河でしかやらなかったみ

たいなことが、清水区の方では不満がたまる一因だったと思うんですけども、その「説明をきちっとしていく」というのは、どのようにやっていくのでしょうか。

【市長】

それは今検討中です。タウンミーティングの反省もあるんですよ。

さきほども道路啓開の実施や救護所の設置とかね、我々は準備して、きちっと伝えていきたいと思ったんですけど、その前の段階でね。反対の方が、怒号を浴びせるということで、説明にならなかったんですね。残念ながら、聞く耳を持っていただけなかった。

やはりそういう状況ではやっぱりなかなか難しいのかな、ということを前回のタウンミーティングの教訓として得ましたのでね。

どうしたらもっともっと胸襟を開いて意見を交わすことができるのか、ということは今検討しています。

【司会】

よろしいでしょうか。

では最後に、朝日テレビさんお願いします。

【朝日テレビ】

桜ヶ丘病院についてちょっと関連なんですけれども、先ほど田辺市長おっしゃた中にですね、より多様な災害の場面で救護の役割を担ってもらう、県当局にも理解を願うということでしたけども、県が、今月1日にまとめた指針によると、想定津波の浸水域に開設・移転する病院を、救護病院の指定要件から除くという指針が出まして、指定するのは知事だと思うんですけども、そうしますと、県のこうした指定要件を受けてですね、市としては移転する予定の桜ヶ丘病院は救護病院として位置付けるのでしょうか。そのあたりをどのように考えてますでしょうか。

【市長】

それも先ほど申し上げたつもりだったんですけども、少し補足をしますとそういうことですよ。JHCOさんとこれからそののところへんを議論して、きちっとそれが指定されるように信頼感を増していきたいし、ここも県の皆さんとの対話が必要だろうというふうに思っています。

【司会】

たくさんのご質問をいただきましたが、お時間の方がまいりましたので、今日の記者会見は以上とさせていただきます。次回、4月24日午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。